



創立50周年記念式典

The party in honor of the 50th foundation of JLWA

去る10月23日（火）15：30～18：30 都内文京区東京ガーデンパレスに於いて開催されました。来賓として、社団法人日本溶接協会会長 宮田隆司様，一般社団法人日本アルミニウム協会専務理事 村山拓己様，産報出版代表

取締役社長 馬場 信様にご出席賜り，ご祝辞ならびに乾杯のご挨拶をいただきました。そして約100名の関係者のご列席のもと，記念講演，特別功労賞・功労賞の表彰式そして祝賀会が盛大にとり行われました。

挨拶

一般社団法人軽金属溶接協会会長 小林 紘二郎

本日は、皆様ご多忙中、一般社団法人 軽金属溶接協会の創立50周年記念式典にご参列いただき誠に有難うございました。

当協会の前身たる軽金属溶接技術会が昭和37年11月に設立されて以来50年が経過いたしました。今日に至るまでの間、昭和50年10月には「社団法人軽金属溶接構造協会」と改称し、同時に従来からの軽金属の溶接・接合技術の向上や品質性能の高度化の研究・向上活動に加え、新たにアルミニウム溶接技術検定や認定業務を継承し、広範な活動を展開して参りました。平成20年の公益法人法の改正を受けまして、公益型で非営利性が求められる一般社団法人に法人の性格を変更することとし、平成22年10月の臨時総会の承認を得た上で、昨年の平成23年4月1日に新たなスタートを図りました。

おかげ様で経済産業省、軽金属溶接に関係する企業、団体、研究者等の皆様のご支援とご協力を得て、着実かつ積極的に協会の活動を繰り広げた結果、国内外の軽金属溶接業界や産業部分に対し、僅かなりとも貢献、向上に資することが出来たのではないかと考えております。改めまして、皆様に対し、この場をお借りして感謝の意を表したいと存じます。

改めてこの10年を振り返ってみますと、船舶、鉄道車両部門におきましては、より高速化のための軽量化が求められ、アルミニウムのより広範、普遍的な使用が必然となりました。その関連で、アルミニウムを始めとする軽金属溶接技術の開発、高度化、作業安全化等が強く求められ、当協会を始めとして、その対応に当たった経緯があります。今では、高速で軽量の船舶、鉄道車両も極めて一般的になり、我が国において広く見ることが出来る状況になって参りました。

また、自動車部門におきましては、ユーザーニーズを積極的に取り入れることに努めました。具体例として、自動



小林紘二郎会長

車の軽量化を図るために自動車メーカー等と連携し、アルミニウム溶接の技術高度化、広範化等を検討、研究してきましたが、その成果として最近では、鋼とアルミニウム合金の異種金属接合の適用が進むなど、新技術開発が進化して参っています。

これらの技術開発と同時に、経済産業省と歩調を合わせて規格化の活動もこの10年非常に活発に行われてきました。たとえば、昨年12月にFSW（摩擦攪拌接合）に関連するISO 25239が発効した件などが挙げられます。産官学協同による規格化推進は、国際市場で我が国の技術を活かすと同時に我が国の技術の優位性を維持することに密接に繋がります。業界や国の利益になりうると信じる次第です。

今後は、これまで推し進めてきました技術面、資格・検定面、研究開発面等での方向性に加え、省エネルギー・環境重視の時代性も踏まえ、より時代のニーズに沿った役割を積極的に推進し、かつ、経済・産業のグローバル化に合わせてより活動の国際化を進めて参りたいと存じます。

次の10年、20年により活発、先進的な協会の活動が実

施出来ますように、今まで以上に皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。有難うございました。

1. 記念講演

下記演題のもとに、今井保穂様、田中学様から記念のご講演をいただきました。詳細は、次月号以降に、そのご寄稿分を掲載させていただく予定です。

(1) 検定開始時からの苦労話、エピソードなど

講師：財防衛技術協会 客員研究員 今井 保穂 氏
溶接へのかかわり、ならびに本協会検定試験の初期の頃のエピソードを懐かしくお話いただきました。

(2) 軽金属溶接技術の変遷・現状と今後の展望

講師：大阪大学 接合科学研究所 教授 田中 学 氏

アーク溶接における、ティグ・ミグのアークの温度分布の差異について、数値解析と見える化技術を、その現状と将来展望についてお話いただきました。



今井保穂氏



講演会場風景



田中 学氏

2. 特別功労賞・功労賞表彰式

榎本正敏専務理事より下記説明があり、小林会長から賞が授賞されました。

本協会の前身であります軽金属溶接技術会が1962年(昭和37年)11月に設立されて以来50年間、軽金属溶接に係わる諸先輩、OBの皆様のご貢献により現在に至っているわけでございますけれども、そのご貢献やご努力に対し是非とも感謝の意を表したいと思い、理事会の発案に基づき創立50周年記念事業ワーキンググループが7名の委員の下に組織されました。昨年12月の初会合以来数回の会合を重ね、議論いたしました結果、格別に功績のあった方に特別功労賞、功労賞を差し上げるということに決定いた

しました。選考基準を設定し、選定に当たりましたが、その基準は、以下のとおりとなっています。

- ① 原則として、70歳以上(平成24年4月1日現在)
- ② 会長・副会長経験者・委員長10年以上経験者、委員として貢献大の者、執筆で貢献大の者
- ③ 30周年記念功労賞受賞者は除く

この基準に基づき、ワーキンググループにて検討の結果、1名の特別功労賞、14名の功労賞の受賞者を推挙し、企画運営委員会と理事会に諮り、承認を得ました。本日の表彰式には、15名の内、11名の方がご出席されております。

特別功労賞：藤田 譲 様



藤田 譲様

功 勞 賞：赤星 健二 様, 浅野 祐一郎 様,
今井 保穂 様, 大岡 紀一 様,
金子 純一 様, 佐藤 史郎 様,
杉山 禎彦 様, 竹内 勝治 様,
富田 康光 様, 野本 敏治 様,
馬場 義雄 様, 堀 茂徳 様,
箕田 和之 様, 宮嶋 時三 様



佐藤史郎様



杉山禎彦様



赤星健二様



今井保穂様



竹内勝治様



野本敏治様



大岡紀一様



金子純一様



馬場義雄様



箕田和之様

3. 祝賀会

平安の間から、高千穂の間に会場を移して、17:00から祝賀会がとりおこなわれました。

来賓ご祝辞

社団法人日本溶接協会会長 宮 田 隆 司 様

本日は軽金属溶接協会創立50周年、誠におめでとうございます。

設立当初の昭和37年頃のお話を少しさせていただきたいと思います。当時はYS11の試験飛行が行われていました。また溶接関連ではIIW（国際溶接会議）に日本から参加し始めた頃です。小林会長も私も未だ大学に入るか入らないかの頃です。国内では東海道新幹線が東京オリンピックを前に工事が行われており、経済成長がまさにこれから始まるという、前途に期待が多いにあふれた時代でした。それから、50年、国内の経済状況ははなはだ厳しく低迷から脱しきれないという状況にあります。

溶接関連においては、皆様ご承知のように、FSW（摩擦攪拌接合）をはじめとして新しい技術の目が出始めているのではないかと思います。航空機や鉄道車両などに随分と使われるようになりましたし、さらに異材接合も出始めており新しいトレンドが見え始めています。さらにここに来て追い風となっているのが、次世代自動車、クリーンエネルギーの問題、そしてこれらに端を発して、種々の分野での省エネルギーという課題に対して不可欠な材料になってまいりました。

軽量化の問題は古くて新しい問題であります。構造材の軽量化は必ずしも金属材料だけではなく、複合材料なども考えられます。私がいま名古屋大学でも、日本で少し遅れをとっていたCFRPの成形・加工技術の開発拠点を、経済産業省の肝いりで名古屋大学につくろうとしています。このような分野も今後急速に発達していくことで



宮田隆司様

しょう。これら、超高張力鋼板、アルミニウム材料などの金属材料ならびにFRPなどが相互に切磋琢磨して新しいイノベーションが生まれてくる状況になってほしいと思っています。日本の今の状況下で必要なのは、日本でしか作れない高度なものをとにかく作っていくという、次の時代に向けての取組かと思っています。

一寸堅苦しい話を致しましたが、この溶接界全体が連携して新しいものに取組み、若い人たちにとって魅力のあるものにしていきたいと思っていますので、どうかご協力のほどお願いいたします。

本日はお招きいただきましてありがとうございました。創立50周年記念、本当におめでとうございます。

来賓ご祝辞

一般社団法人日本アルミニウム協会専務理事 村 山 拓 己 様

本日は、一般社団法人軽金属溶接協会創立50周年、誠におめでとうございます。この50周年に至るまでの諸先輩ならびに事務局の御努力に敬意を表したく、お祝い申し上げます。

昭和37年に、軽金属協会の中に任意団体としてこの協

会が生まれたわけですが、その後昭和50年に社団法人として認可を受け、これまで50年に亘る歴史の間、接合技術の確立による軽金属の構造材への適用を促進され、初期の目的を大いに達成されたのではないかと思います。この接合技術の確立の普及によりまして、航空機、車両や建築



村山拓己様

物にアルミニウムの適用が増えてきています。当初、わずか20万トンでしかなかった製品の総需要は、今や400万トン近くに達していることは皆様すでにご存じのことかと思えます。協会の様々な認証制度あるいは工場認定制度などが、この拡大需要に相当大きく寄与したものだと思えます。また昨年はFSWの国際規格が制定され、新たなオペレータの認証制度にも力を注いでいきたいというご計画がございますので、我々も大きな心の支えとなっています。

ご案内の通り、アルミニウム製品の総需要は、リーマンショックとその後の大震災あるいはEU通貨の信用不安を受けまして、390万トンレベルで推移していますが、今年はずかでも400万トンを上回るのではないかと期待しています。

アルミニウムの持つ特性、特に軽量で強度があるということと地球温暖化問題の大きな解決策として提供できること、そして同じくリサイクルがしやすいということで、新地金を作る際のエネルギーのわずか3%で済むというアルミニウムを利用していくことができる、しかもそれは何

世代にも渡って利用し続けることができるという非常に胸を張って強調できるところではないかと思えます。自動車におきましては、地球環境問題の解決のために軽量のアルミニウム材を利用して、車体の重量を軽くし、CO₂の排出を減らし、ライフサイクル全体での地球環境問題へ非常に大きく貢献できるということです。したがって、自動車1台あたりのアルミニウム使用量も今後ますます増えるものと確信いたしております。

また航空機におきましてもアルミニウムの適用が増えております。しかし残念ながら最新鋭のボーイング787は、炭素繊維複合材が半分くらい使われアルミニウム使用量は若干減りましたが、三菱重工業のMRJの胴体や主翼には、アルミニウムが使われています。さらに目を先に転じますと宇宙分野においても、アルミニウムをはじめとする軽金属材料の適用がますます増加していくものと確信しています。

50年に亘る長い間、貴協会が、種々技術の確立を図られてきたわけですが、今後特に留意しないといけないと私が思っていますのは、アルミニウム同士の接合につきましてはひずみの調整に非常に苦勞されていると聞いています。またその技能の伝承にも大きな課題があるともうかがっています。さらに、今後は、アルミニウム同士のみではなく、異種材料との接合課題への取組とその克服が、大きな課題かと思っています。私どもアルミニウム協会でも来年度の予算要求で国家プロジェクトとして、異種材料との接合技術の確立に向けて大きな予算を要求してきております。そういう意味では、軽金属溶接協会さんの出番がますます増えてくるものと思われまます。

これまでの50年の歩みを、さらに次の50年につなげられ、また100周年記念の盛大な式典が、また盛大にとりおこなわれることを祈念して私の御挨拶とさせていただきます。

来賓 乾杯のご挨拶

産報出版代表取締役社長 馬 場 信 様

会場の諸先生・諸先輩の方々に前にして、私がごときものが、はなはだ僭越ではございますがご指名でございますので乾杯の音頭を取らせていただきます。準備が整うまで、少し、お話をさせていただきたいと存じます。

軽金属溶接協会さんとお付き合いさせていただきましてから40年程度となりますが、日本橋の朝日生命館というところがございまして、軽金属協会内に軽金属溶接技術会があり、一つの部署のような形で運営されておりました。森田静弘さんが事務局長さんでございまして、種々思い出されるところです。先ほど今井先生のお話にもございましたように寺沢先生、仙田先生などが熱心にご指導されてい

ました。また、その後、法人化ということで軽金属溶接構造協会が誕生したのですが、その頃、事務局におられた初谷さんは、未だ若手でございまして、その初谷さんが今年定年退職されたということで時代の流れの速さを感じている次第です。思い起こせば、森田さんは麻雀がお好きで、しかも森田さんの非常にありがたいことに弱くて、スポンサーとして大変ありがたい存在でした。いじめましたのは私ばかりではありませんで、今井先生をはじめとする皆様でもあり、森田さんからお小遣いを頂戴していました次第です。軽金属溶接構造協会さんは、非常にありがたい存在でした(笑)。森田さんのご冥福をお祈りしたいと思います。

す。

これからの軽金属溶接協会のことを考えますと、この春に完成しました溶接会館に入居されましたのを契機に、日本溶接協会・溶接学会との3団体、より緊密な連絡を取って溶接界の発展にご貢献をしていただければと思います。

それでは乾杯に入らせていただきます。一般社団法人軽金属溶接協会のますますの御発展と、本日もご臨席の皆様方のご健勝を祈念して乾杯したいと思います。高らかにご唱和願います。乾杯！



馬場 信様

歓 談



中ノ挨拶

一般社団法人軽金属溶接協会副会長 浅見重則

本日の記念講演として、今井様の当時の思い出と、田中先生の溶接の最前線のお話をおうかがいし、諸先輩方のご苦勞への感謝の念と、今後の軽金属における溶接の発展を期したいという念を抱きました次第です。今回、特別功勞賞ならびに功勞賞を受賞されました方々をはじめとする諸先輩方のご支援あつての今の協会であることを、あらためて感謝申し上げますとともに、今後も60周年、70周年の発展へと継続いたしますように、関係者の皆様には引続きご支援賜りますようによろしくお願い申し上げます。そして、さらに皆様方のますますのご健勝を祈念して中ノ挨拶とさせていただきます。乾杯したいと存じます。

乾杯！

18：30浅見副会長の中ノ挨拶により盛会裏に終了しました。



浅見重則副会長